

改定のポイント

生活の変化

昼間人口	高齢化の影響もあり、昼間の時間帯に茅ヶ崎にいる人の割合が増えている。より家に近い場所で、一日を過ごしていることが多くなっている。
就業就学地	都内勤務の割合が徐々に減り、横浜市・川崎市、市内及び近隣市に勤務する割合が少しずつではあるが、増している傾向にある。今後は、より職住が近接してくる可能性がある。
時間の使い方	仕事や家事などの2次活動に割く時間が減り、個人のために割く時間が増えつつある。働き方改革等が進めば、時間の使い方が今後も変化していく可能性がある。

改定のポイント

防災・防犯などまちの安全・安心は、これまでと同様に重要である。加えて、今後のまちづくりは、以下の3つの事項を踏まえ、自然や街なかで活動しやすい環境を整えることで、人々にとって、茅ヶ崎が価値ある街になる。

■自然環境と都市機能がまとまった都市構造とすること

- ・自然環境、行政・商業業務機能が備わる拠点や日用品を買うことができる場所まで、徒歩・自転車や公共交通で行けるように、集約した都市構造を形成すること。
- ・建築や人口密度の高めるだけでなく、人が行きたくなるような通りや都市拠点をつくること。

■楽しく、リラックスして過ごせる空間

ユニバーサルデザインに配慮すること前提をに、学習や交流など人々の営みを考えながら、楽しく、リラックスして過ごせる屋外の空間づくり（公園、道路、施設など）を進める。

■街なかの移動も楽しめること

徒歩や自転車で安全に移動ができるように、歩行空間や自転車走行環境等を整えていくとともに、民有地や通りなどに四季の移ろいを感じる花や木、魅力的なサインやストリートファニチャー等があると、移動の楽しみが増す。

以上のことを踏まえることで、健康増進、消費活動や交流の促進など様々な効果が期待できる。

調査結果

人々が抱く、茅ヶ崎らしさとは

歩きや自転車での移動が多いように、まち全体がコンパクトなため、自然、駅周辺、商店、住宅等の互いの距離が近いのが特徴的。時間等をそれほど気に掛けず、まちの要素を気軽に楽しめるのが茅ヶ崎の魅力。

「人とまちの距離がちょうどよい。」(案)

茅ヶ崎は都心からも近い、小さな街。この街に自然やお店など色々なものが詰め込まれている。

食事をしたい、買い物がしたいと思えば、おいしい食事や買い物する場所が近くにある。サーフィンや里山散歩したいと思えば、海や里山が近くにあるから、すぐに行ける。1日あれば、茅ヶ崎のまるごとを味わえる。

思えば、気軽に歩いて、ゆったりと過ごせるのが茅ヶ崎。

茅ヶ崎のイメージ

「自由な」、「明るい」、「ゆったりとした」といった印象が他都市より強い

茅ヶ崎の魅力

市民満足度調査など複数の調査で共通し、茅ヶ崎の魅力として高いのが「住み心地（居住環境）」「交通の便（買い物が便利）」「自然が豊か」「食が豊か」

居住環境（過ごし方）

自然と都市が身の回りの環境にあり、生活している人の姿やまちの雰囲気から、「自由な」、「明るい」、「ゆったりとした」といったイメージを醸成

交通（移動）

徒歩・自転車の魅力

- ・時間を気にせずに自由にどこでも行けることや、自然やまちの空気を感じながら、移動自体を楽しめることに、徒歩・自転車の魅力を感じている

改善点 休めるベンチがほしい、駐輪場が少ない、自転車のルール・マナーが悪い、自転車レーンがもっとほしい

バス・車の利点

- ・荷物が多いこと、子どもがいるなど、何かしら負担がある場合に時間をかけずに移動することに利点があると感じている

改善点 案内やルートが分かりにくい、バス停に屋根やベンチがほしい、駐車場が少ない

自然、みどり

- ・海、里山などの自然環境が近くにあり、自然を感じて暮らせる
- ・身近な公園や、家々のみどりを大切だと感じている
- ・富士山、江の島など眺望も綺麗

改善点 身の回りのみどりを大切にしたいと感じている。一方で、海に関係する資源に比べてみどりに関わる資源の魅力が伝わりきれていない。自然やみどりの「魅力」を感じる環境や機会が必要

食

- ・海があるまちとしての印象から来るもの。海の幸などが豊かというより、海の幸も含めて、食事ができる場所が身の回りにある

茅ヶ崎のイメージや魅力と関わりが深い項目を整理

居住環境、交通、自然・みどりに関する調査から、特徴や課題等を整理。

■茅ヶ崎のイメージや魅力

市民満足度調査

市内在住の方に、茅ヶ崎の魅力や市政に対する満足度を調査

茅ヶ崎の地域特性調査

市内外の方に共通の設問・選択肢を用いたアンケートを行い、茅ヶ崎の特性を他都市と比較し、茅ヶ崎のまちの性格を把握。

観光資源に関する調査

市内外の方に、茅ヶ崎に対する印象や観光資源について把握。

茅ヶ崎の印象やライフスタイルに関する調査

ヒアリング、WEBアンケート、メディア（雑誌、TV等）から、茅ヶ崎に関する印象やライフスタイルについて把握。

転入者アンケート

5年以内に転入したファミリー世代、高齢世代を対象に、居住の意向、まちの魅力や課題を把握。

■個別の調査（居住環境、移動、自然・みどり）

市民討議会

市内在住の方を無作為抽出により抽出し、3つの要素についてグループ討議を実施

転入者ヒアリング

5年以内に転入したファミリー世代、高齢世代を対象に、転入理由や抱いていたイメージ、イメージギャップなどをインタビュー

教えて！好きな場所での過ごし方

日ごろ、どんな場所で、どのような気持ちで過ごしているのかを、「いつ」、「どうやって」、「気分」、「好きな理由」を聞き、生活の実態やまちの特徴を把握。

移動特性（大都市交通センサス）

鉄道・バス等の利用実態や駅から自宅・勤務場所間の移動手段（端末交通手段）から移動の特性を把握。

自然、みどりに関するアンケート

どのようなみどりを大切にしたいか調査（守りたい、増やしたいなど）。

調査結果

人々が抱く、茅ヶ崎らしさとは

歩きや自転車での移動が多いように、まち全体がコンパクトなため、自然、駅周辺、商店、住宅等の互いの距離が近いのが特徴的。時間等をそれほど気に掛けず、まちの要素を気軽に楽しめるのが茅ヶ崎の魅力。

「人とまちの距離がちょうどよい。」（案）

茅ヶ崎は都心からも近い、小さな街。この街に自然やお店など色々なものが詰め込まれている。

食事をしたい、買い物がかたいと思えば、おいしい食事や買い物する場所が近くにある。サーフィンや里山散策したいと思えば、海や里山が近くにあるから、すぐに行ける。1日あれば、茅ヶ崎のまるごとを味わえる。

思いついたら、気軽に行けて、ゆったりと過ごせるのが茅ヶ崎。

茅ヶ崎のイメージ

「自由な」、「明るい」、「ゆったりとした」といった印象が他都市より強い

茅ヶ崎の魅力

市民満足度調査など複数の調査で共通し、茅ヶ崎の魅力として高いのが「住み心地（居住環境）」「交通の便（買い物が便利）」「自然が豊か」「食が豊か」

居住環境（過ごし方）

自然と都市が身の回りの環境にあり、生活している人の姿やまちの雰囲気から、「自由な」、「明るい」、「ゆったりとした」といったイメージを醸成

交通（移動）

徒歩・自転車の魅力

- ・時間を気にせずに自由にどこでも行けることや、自然やまちの空気を感じながら、移動自体を楽しめることに、徒歩・自転車の魅力を感じている

改善点 休めるベンチがほしい、駐輪場が少ない、自転車のルール・マナーが悪い、自転車レーンがもっとほしい

バス・車の利点

- ・荷物や多いこと、子どもがいるなど、何かしら負担がある場合に時間をかけずに移動することに利点があると感じている

改善点 案内やルートが分かりにくい、バス停に屋根やベンチがほしい、駐車場が少ない

自然、みどり

- ・海、里山などの自然環境が近くにあり、自然を感じて暮らせる
- ・身近な公園や、家々のみどりを大切だと感じている
- ・富士山、江の島など眺望も綺麗

改善点 身の回りのみどりを大切にしたいと感じている。一方で、海に関係する資源に比べてみどりに関わる資源の魅力が伝わりきれていない。自然やみどりの「魅力」を感じる環境や機会が必要

食

- ・海があるまちとしての印象から来るもの。海の幸などが豊かというより、海の幸も含めて、食事ができる場所が身の回りにある

改定のポイント

昼間人口 高齢化の影響もあり、昼間の時間帯に茅ヶ崎にいる人の割合が増えている。より家に近い場所で、一日を過ごす時間が多くなっている

就業就学地 都内勤務の割合が徐々に減り、横浜市・川崎市、市内及び近隣市に勤務する割合が少しずつではあるが、増している傾向にある。今後は、より職住が近接してくる可能性がある

時間の使い方 仕事や家事などの2次活動に割く時間が減り、個人のために割く時間が増えつつある。働き方改革等が進めば、時間の使い方が今後も変化していく可能性がある

改定のポイント

防災・防犯などまちの安全・安心は、これまでと同様に重要である。加えて、今後のまちづくりは、以下の3つの事項を踏まえ、自然や街なかで活動しやすい環境を整えることで、人々にとって、茅ヶ崎が価値ある街になる。

■自然環境と都市機能がまとまった都市構造とすること

- ・自然環境、行政・商業業務機能が備わる拠点や日用品を買うことができる場所まで、徒歩・自転車や公共交通で行けるように、集約した都市構造を形成すること。
- ・建築や人口密度の高めるだけでなく、人が行きたくなるような通りや都市拠点をつくること。

■楽しく、リラックスして過ごせる空間

ユニバーサルデザインに配慮することを前提に、学習や交流など人々の営みを考えながら、楽しく、リラックスして過ごせる屋外の空間づくり（公園、道路、施設など）を進める。

■街なかの移動も楽しめること

徒歩や自転車で安全に移動ができるように、歩行空間や自転車走行環境等を整えていくとともに、民有地や通りなどに四季の移ろいを感じる花や木、魅力的なサインやストリートファニチャー等があると、移動の楽しみが増す。

以上のことを踏まえることで、健康増進、消費活動や交流の促進など様々な効果が期待できる。

計画の概要

ちがさき都市マスタープラン

〈基本理念（基本的考え方）（今回の改定のポイント）+【現在のまちづくり理念】〉

- ・自然環境と都市機能がまとまった都市構造の形成
- ・楽しく、リラックスして過ごせる空間の創出
- ・街なかの移動を楽しめる環境を形成
- ・環境に配慮しながら、「心地よさ」、「利便性」、「安全・安心」の視点から必要な都市機能を向上
- ・「地域社会」へ配慮しながら、市民・事業者・行政の適切な役割分担と相互の連携による「協働都市づくり」の推進

将来都市像

「多世代が共生できる住みたい、住み続けたいまち」
～みんなで育む やすらぎとにぎわいのある快適環境都市～

めざすべき方向

- ・多様な個性と自然と文化が共生する都市づくり
- ・地域や経済の活力が「茅ヶ崎」の魅力を育む都市づくり
- ・安全・安心、快適、便利な市民生活が実現できる都市づくり

分野別の取り組み方針

《土地利用》	多様なライフスタイルを支えるまち
《交通体系整備》	楽しく快適に移動できるまち
《自然環境保全・緑地整備》	人と生きものが共存するみどりのネットワーク
《都市景観形成》	軽やかな気分で過ごせる空間をつくる
《住環境整備》	心地よく・住みよいまち
《都市防災》	強さとしなやかさを備えた安全・安心なまち

連携

景観計画

〈改定の考え方〉
・誰もが過ごしたいと感じる屋外空間をつくるため、行為の制限や公共施設の設計指針を変更
・施設のデザインに加え、施設内容や利活用についても景観協議を行う。
・茅ヶ崎が持つ資源を守り、生活にとって良い空間がつけられているか、定点観測や観察日誌の手法を用い、計画の達成度を評価

基本理念

軽やかな気持ちで過ごせる 空間をつくる

目標

- ・自然と文化を守り、継承する
- ・屋外の生活を楽しむ文化を醸成する
- ・茅ヶ崎の魅力が感じられる工夫を取り入れる

みどりの基本計画

〈改定の考え方〉
・法令等の制度を活用して自然環境の保全を進めるとともに、情報発信や講座等で自然環境の魅力を伝える取り組みを推進する
・みどり豊かで人の生活を心地よくする空間をつくる取り組みをすすめる。特に公共施設や民間の建築行為においては景観協議を活用する
・みどりを多様な機能（生きものの生息・生育空間、防災・減災、レクリエーション、景観形成）をもった「グリーンインフラストラクチャー」と捉えてまちづくりを推進する。

基本理念

生活を支えるみどり、生物多様性が高いみどりを協働により次世代へ継承します

みどりの将来像

「人と生き物が共存するみどりのネットワーク」

基本方針

- ・人々が身近にふれあうみどりの充実
- ・生きものが生息・生育するみどりの確保
- ・みどりと人々が出会う協働のしくみづくり